

夏の乳房炎 - 足元をもう一度見直して -

当たり前のことが当たり前にできていない
乳頭端の清拭ムラが多すぎる

夏の乳房炎、特に大腸菌性乳房炎が早くも多発しています。原因は、環境から、牛の体調までいっぱいあると思います。しかし、乳房炎を予防するための最終防御は、乳頭と乳頭口の衛生（殺菌&清拭）です。



見た目の衛生と細菌的な衛生は違う

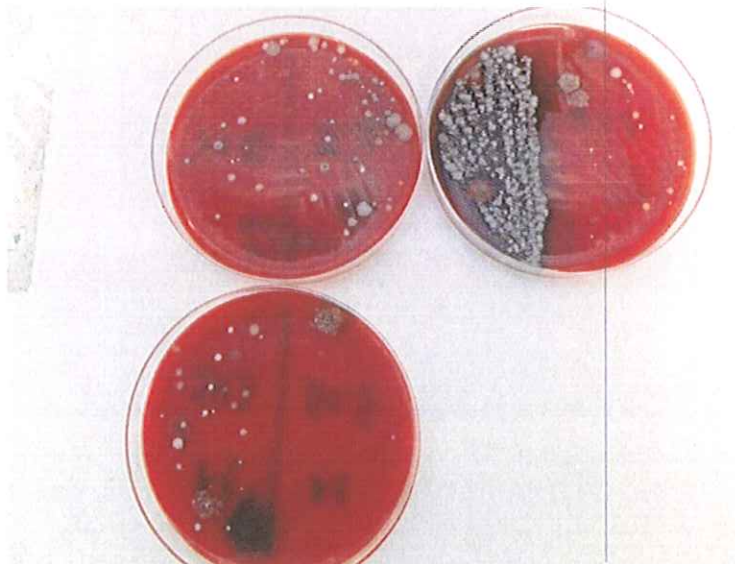


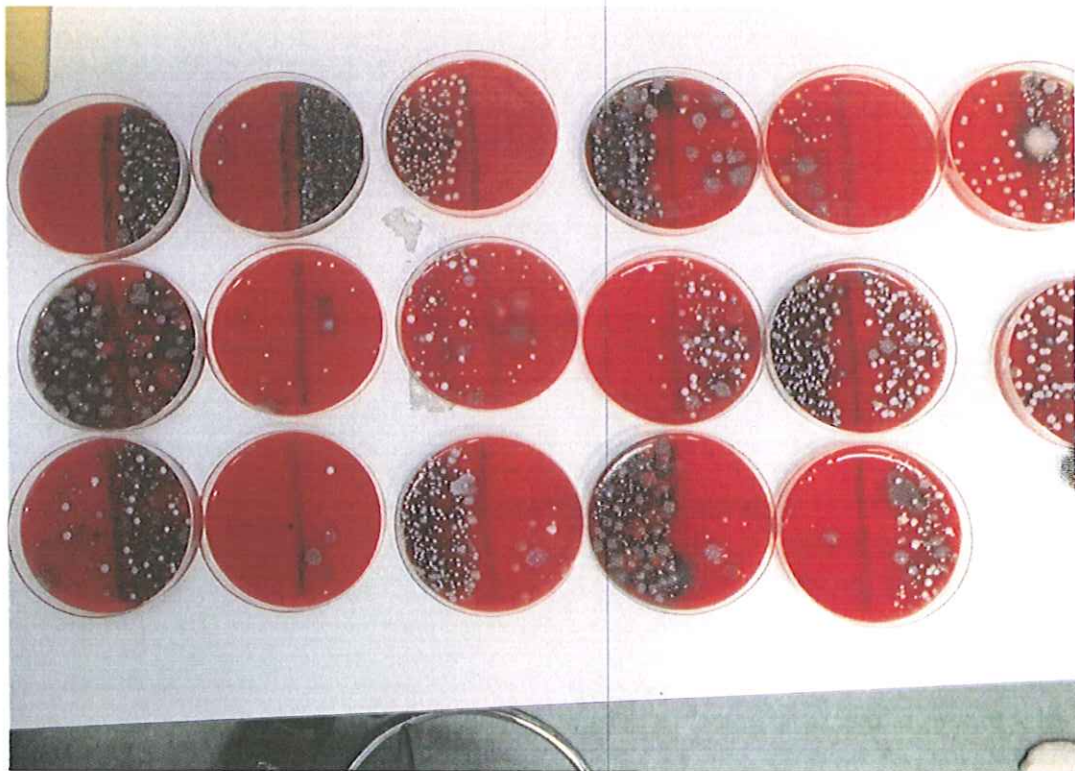
写真 A 農場

前頁写真 A は、ある農場で搾乳時の清拭直後（ユニット装着直前）の乳頭口を、滅菌綿棒（カルチュレット）を注射用蒸留水で湿らせて拭ったものを塗布：培養したものです。培地は半分に 1 乳頭口分を塗っています。たったの 6 乳頭

口だけでしたが、その結果は、許容されるもの（スコアー1：㊟参照）は、3乳頭口（半分だけ）、不十分：疑問（スコアー2）が2、許容できない（スコアー3）が1乳頭口（17%） ありました。乳頭口の清拭：衛生として許容できるものは、半分（50%） だけだったのです。

このときは、たった6乳頭口しかできなかったのですが（カルチュレットが6本しかなかった） そのうちの1乳頭口は明らかな汚染乳頭口でした。牛には4つの乳房と乳頭口があります。大腸菌性乳房炎で牛を殺してしまうのに、あるいは抗生物質の使用で出荷できなくなるのに、4分房は必要ありません。4つのうちの1分房、1乳頭口から感染し発症すれば十分なのです。そのことからするとこの6分房に1分房の割合は高すぎますよ？ この確率で言えば、1.5頭に1頭は、搾乳の都度、乳房炎感染（大腸菌感染）のリスクにさらされていることとなります。このリスクは、搾乳回数が一日2回あれば、その農場の乳房炎感染の頭数リスクは2倍になりますから、1日トータルとしてのリスクは全頭に及ぶ可能性を示すほどの汚染確率ということになります。

そこで、今度は別の農場でもう少し多く採材してみました。（写真B） これも真ん中から2分割してそれぞれに1検体を塗布しています。33乳頭口の検体数です。



写真B 農場

どうでしょうか？ 許容できない乳頭口（スコアー3）が 15/33 (45%) もあり

ました。残念ながら驚きの数字です。大腸菌性も含め、乳房炎が多発している農場ではありませんが、いつ爆発的な発症になっても不思議ではないと考えられます。環境は非常にきれいな農場でこの結果でした。

乳頭口の汚染を防ぐのは昔から言われていることを丹念に行うしかありません。

1) 環境 (ベッド) の敷料の交換と乾燥

特に夏場は、乳房 (乳頭口) が触れるベッド後半部の敷料をこまめに落として、新鮮で乾燥した敷料を入れること

2) プレディッピング

プレディッピングを行うときにその付着ムラのないように、1本1本、しっかりとディップして、30秒以上のコンタクトタイムがとられているかもう一度確認しましょう。

プレディップ前の乳頭ならびに乳頭口が糞尿で汚染されている場合は、プレディップ前に面倒がらずに一度、衛生的なタオルでふき取ります。

3) 清拭

乳頭の清拭は、前号で示したように乳頭全体をねじり込むように (痛くするというものではありませんよ) 丹念に拭きとり、乳頭口もしっかりと拭き取る作業: 動作を確認してください。

朝晩あるいは朝昼晩の搾乳という大量の流れ作業のなかで、こうした基本的な動作がおろそかになっている可能性がどの農場も高いものと思います。もう一度足元の基本作業を見つめなおす必要があります。

夏は細菌も元気いっぱいですので、より細心の注意と作業が必要になります。農場内でもう一度確認しましょう。

(注: ここで示した乳頭口汚染のスコアは、全くの主観によるもので、学術的な根拠に基づいたものではありません。)

黒 崎